

## オンライン座談会

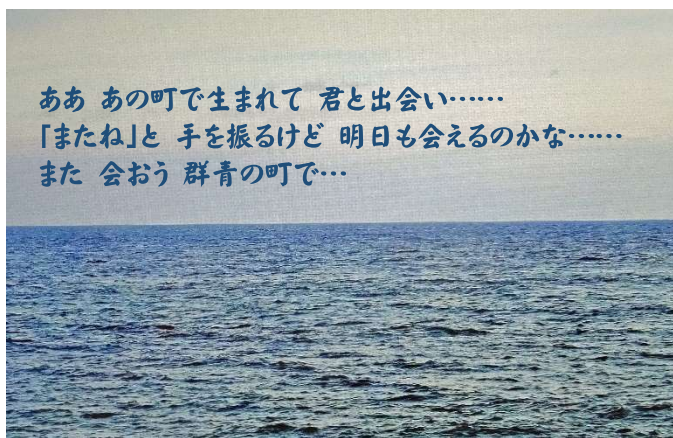
### 《コロナ禍から見る『群青』の真実》

凄まじい勢いで私たちの日常を破壊してきた新型コロナウイルス感染症ですが、わが国ではようやく出口が見えてきた感があります。政府は現在北海道、埼玉、千葉、東京、神奈川に出されている非常事態宣言を今日 5月25日にも解除する方向で検討しており、今夕には発表されるようです。

昨日 5月24日、コーラス・カンパニーのオンライン座談会を受講しました。

出演は合唱曲『群青』の作曲者小田美樹さん(相馬市立向陽中学校教諭)、**本山秀毅**さん(合唱指揮者、大阪音楽大学学長)、聞き手はレコーディング・ディレクターの**坂元勇仁**さん(大阪芸術大学客員教授)の三人でした。

目に見えないウイルスの恐怖に曝され、日本中の人たちがふつに歌うことすらできなくなっています。この災難に立ちすくむ中で、東日本大震災後に生まれた『群青』の歌が、あらためて胸に響いてきます。



大震災に続く大津波で親や親類、友人を失った子どもたちが、「**あたりまえが幸せと知った**」と涙ながらに歌う姿を思い出すたびに心が締め付けられます。個人的なことですが、気仙沼の従兄家族はあの津波で建てたばかりの家をそっくり流され、一週間以上消息も分からない状態が続いたあと、なんとか居場所が確認できたのは、少し高台にある階上中学校の音楽室にからだ一つで避難しているとの知らせを受けたときでした。

座談会冒頭で、2013年に行われた**復興支援コンサート Harmony for Japan 2013**で演奏された『群青』の初演の画像が流されました。これは、現在出版されている**信長貴富**さん編曲によるものではなく原曲で粗削りな面もありますが、素朴な力強さや優しさがひしひしと伝わってくるものでした。



私たち男声合唱団コール・グランツは2018年、創立30周年記念コンサートで、ゲストの女声合唱団とともにこの『群青』を歌いました。それはもちろん**信長貴富**さんによる編曲版でした。演奏中込み上げるものがあり歌うのに苦労したことが思い出されます。

現在 Youtube で観られる初演は演奏の部分だけのようですが、座談会で流された画面には歌い終わって退場する生徒たちが泣いて立ち止まってしまう場面が移っていました。

<https://www.youtube.com/watch?v=hwWIBwaXkUs>



座談会については、別の機会に譲ります。ここで『群青』が生まれた背景を、ご存知の方は多いかと思いますが、あらためて簡単に紹介しておきます。

東日本大震災に伴う原発事故のため避難を余儀なくされた福島県南相馬市立小高中学校の生徒たちが、離ればなれになった友への想いや、ふるさとでの再会への願いを歌にしたものです。

あの時歌った子どもたちは既に成人し、苦しかった思い出を胸にそれぞれ自分の道を歩んでいます。

